

# クローズアップ NGO・NPO

特定非営利活動法人

ケアリングフォーザフューチャーファンデーションジャパン  
(CFFジャパン)

豊かな未来のために「子どもの支援」と「青少年育成」

## ■ すべては「なにかしたい!」という ■ 小さな想い

皮膚をジリジリと焼くような日差しの下、車が黒い排気ガスを吐きながら走る町で、子どもが裸足のままトボトボと歩いています。ずっと差し出す小さな手は黒く汚れており、とても弱々しく見えます。そんなとき無力感に苛まれながらも「なにかできないだろうか?」という想いがどんな人の心にもきっと芽生えるでしょう。

私たちNPO法人CFFジャパン(以下、CFF)の活動が始まったのは、今から16年前のことです。それは、厳しい状況に生きる子どもたちの現実を知ったとき誰もが心に持つであろう「なにかしたい!」という、些細な、しかし確かな想いから始まりました。その想いを抱き形にしたのは、当時フィリピンに渡った約10名の大学生とCFF創始者の二子石章でした。

現在フィリピンとマレーシアには現地法人(CFFフィリピンおよびCFFマレーシア)が運営する児童養護施設「子どもの家」があります。そこには家庭内での虐待や貧困などさまざまな状況から、家族と生活することのできない子どもたちが生活しています。しかし、CFFの活動が始まった当時はただの草木生い茂る何もない土地でした。何もないその場所に「いつかできあがる子どもたちが育つ場所」を夢見ながらフィリピンでもマレーシアでも活動を続けてきました。現地では周辺コミュニティの人たちと協働し、日本では現地でのボランティア活動に参加する仲間を集め派

遣することで「子どもの家」を築いてきました。

## ■ 青年たちが築く「子どもの家」

CFFは1997年に第1回フィリピン・ワークキャンプを開催しました。ワークキャンプでは日本の青年ボランティア、フィリピンの青年ボランティア、そして周辺コミュニティに住む人たちが協力し、一切重機を使わずに、手と手で「子どもの家」建設に携わるボランティアワークを行いました。

2001年にはスタディツアーも開始し、ボランティアワークにとどまらずスラム街や現地の施設、先住民族の住む村を訪問し、差別や貧困など厳しい状況に生きる子どもたちの現実を伝える活動も始めました。

それ以降CFFはワークキャンプ、スタディツアーを通して、青年たちと現地で共に活動をし、日本ではその活動をより多くの人に広めることで、次へとつないできました。2007年にはマレーシアにもその活動が広がり、現在までにフィリピンとマレーシアを合わせて107回のワークキャンプ、34回のスタディツアー、8回の子どもの家との交流キャンプを開催してきました。現地に渡った日本人ボランティアの総数は第1回フィリピン・ワークキャンプの開催から15年で3,000人を超え、現地の人たちと想いを分かち合い、共に協力し合うことでフィリピンとマレーシアにある「子どもの家」を建設、支援してきました。

その成果もあり、今日も現地では子どもたちが元気に生活し、日々学校に通いながら、成長しています。

## 子どもが育ち、青年が育つ

「子どもの家」にいる子どもたちの多くは、本来親から受けるべき十分な食事、安心して暮らせる家・教育、そして愛を受けてくることができずでした。逆に虐待などにより、感情が欠落してしまうほど自分を失ってしまった子どももいます。そうした子どもたちは入所当時、自分の体の洗い方も、ご飯の食べ方も、他者とのコミュニケーションのとり方も、何も知りませんでした。

そんな子どもたちにCFFは安心して生活できるように家と食事を提供するだけでなく、就学環境を整えることはもちろん、施設内での教育・自立支援も行っています。入所する多くの子どもは家族のもとへ帰ることが困難なため、スタッフたちは子どもたちの親として、子どもたちに愛を注ぐことを大切にしています。

また現地に渡った日本の青年たちも多くのことを子どもたちから学んでいます。ある日本の青年は「ワークキャンプに参加し、離れて暮らしている家族を想い生きる子どもたちと出会い、他者や社会のための人生へと生き方が変わった」と話していました。

このようにCFFはワークキャンプとスタディ



フィリピンで「子どもの家」の子どもたち、フィリピン人青年と交流する日本人ボランティアたち。三者三様のバックグラウンドを持ちそれぞれが共に育ち合う。

ツアーを中心に、青年たちと共に活動することで「子どもの家」を築き、子どもたちが安心して成長していく場所を築いてきました。同時に青年たちは共に活動を起こしていく中で他者と協働し想いを実現していくことで、また子どもたちや現地の人たちと出会い新たな価値観と向き合うことで、ほかでもない自らが成長していく場所を築いてきました。

## 豊かな未来の基盤を築く

こうして私たちCFFは「子どもたちの支援」と「青少年の育成」を形にして、活動を続けています。そして、その先には「Caring for the Future Foundation = 豊かな未来の基盤を築く」という大きな願いがあります。

この先の未来に向けて私たちCFFは、フィリピンでは子どもたちへの生活支援の強化や職業訓練を取り入れ、より具体的な自立支援の仕組みづくりを、マレーシアでは自給自足、自然エネルギーの活用を基盤に環境・経済・福祉の3つの持続可能性を重視した100年先も続く施設づくりを目指しています。そして、日本ではフィリピンとマレーシアのサポートを通して、社会の中で自らの持つ力を発揮できる青年育成にさらに力を注いでいきます。

世界にはもちろんフィリピン／マレーシアにも、まだまだ厳しい環境に置かれた子どもたちがあふれています。私たちにできることは小さいですが、それでも目の前にいる一人の子どもに寄り添い、社会の未来を担う一人の青年と共に活動を続けていきます。